

令和5(2023)年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和5(2023)年9月1日
栃木県農業環境指導センター

にらにおけるフシダニ科の一種の発生について

1 害虫名 フシダニ科の一種 *Aceria* sp.

2 発生植物名：にら

3 発生経過

令和4(2022)年7月、栃木市内のにらほ場において、葉の一部が湾曲する被害が確認され(写真1、2)、被害株が農業環境指導センターに持ち込まれた。被害株を観察したところ、葉鞘内部及び一部の葉に水疱状の隆起が発生しており(写真3、4)、その中にフシダニ科のダニの寄生が確認された(写真5)。

被害株を法政大学植物医科学センターが同定したところ、フシダニ科 *Aceria* 属に属するダニであるものの、チューリップやネギ属の植物から報告されているチューリップサビダニ(*Aceria tulipae*)等の種とは、外部形態や塩基配列が異なる別種のダニであることが判明した(写真6)。

4 被害の特徴

主に葉鞘部や葉の根元に寄生し、被害部位に水疱状の隆起が発生する。本種の生息密度が高い場合、葉身にも水疱状の隆起が発生し、その表面が光沢を伴ったビロード状に変化する。また、被害部位からねじれるように湾曲、奇形化するため、商品価値が失われる。上位葉の被害部位には本種の寄生がほとんど確認されないため、葉鞘内で発生した被害が葉の伸長に伴い上部に進展してきたものと考えられる。

令和5(2023)年7月、発生ほ場では、2年株の栽培ハウスで葉が湾曲する被害が散見された。また、育苗床及び1年株の栽培ハウスでは、葉鞘部に本種の寄生が確認されたものの、症状は確認されなかった。

5 形態

成虫は体長約0.2mmで、白色半透明のうじむし型。卵は同じく白色半透明の球型。

6 生態

本種は、国内のネギ属で確認されているフシダニ科 *Aceria* 属の既知種とは外部形態や塩基配列が異なる初確認の種であり、生態は不明である。

7 防除対策

- ・現時点で本種に適用のある農薬はない。
- ・本種の発生及び被害の早期発見に努める。
- ・被害が確認されたら速やかに株ごと除去し、抜き取った株をビニール袋に詰めて嫌氣的発酵処理を行い、完全に殺虫してから埋却するなどして処分する。
- ・発生ほ場で使用した鎌等の農機具やトラクター等の農業機械は、これらを介して本種が移動分散する可能性があるため、使用後によく洗浄する。



写真1 被害株 (赤丸部：湾曲した奇形葉)



写真2 葉の湾曲奇形化



写真3 被害株 (収穫後の株元)



写真4 被害株の葉鞘内部
(赤丸部：水疱状の隆起が発生)

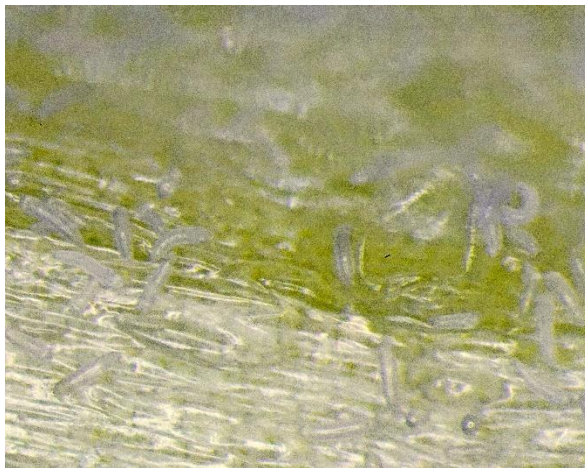


写真5 葉鞘部に寄生するフシダニ

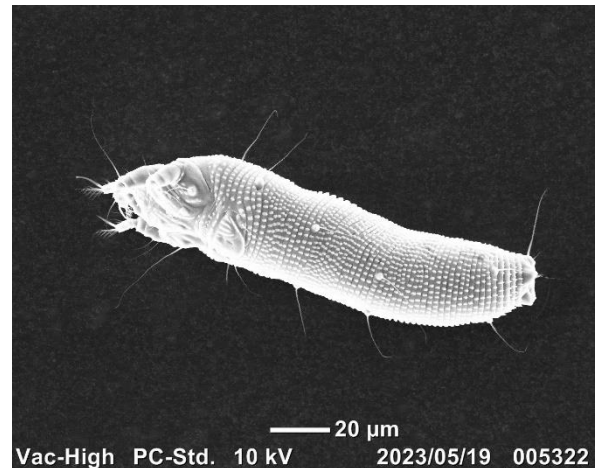


写真6 電子顕微鏡写真
(提供：法政大学 植物医科学センター)

詳細は、農業環境指導センター (TEL 028-626-3086) までお問合せ下さい。
病害虫情報発表のお知らせは「農政部ツイッター(@tochigi_nousei)」、農業環境指導センター
ホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。

